

# 現代文を読み深める授業の一考察 — 補助的な文章の活用を通して —

## 一 はじめに

高等学校学習指導要領総則には、「読書活動を充実すること」が明記されている（第5款の5の（11））。同学習指導要領国語の現代文Bの目標には、「進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる」とあり、同学習指導要領解説国語編には、『現代文B』での学習が契機となつて、生徒の読書への興味・関心が広げられ、読書意欲が十分に喚起されるよう配慮する必要がある」とある。読書活動を充実させる上で、現代文Bの指導は重要な位置に置かれている。

本校では読書習慣が身に付いている生徒は一定数いるようである。しかし、生徒の読書が授業での学習内容と結び付いているようには見えない。本校の生徒は真面目に授業に取り組むが、現代文Bの授業では、授業者の一方的な説明だけを求める生徒の姿が目立つ。授業で説明した内容は理解できているが、興味を持って更に読み深め、主体的に学習を進展させようという姿勢に欠けているように見える。生徒は、授業で取り上げた文章を理解することに終始しているようで、授業を契機に読書をしてみようという意識を持っていない。

生徒の読書意欲を喚起するためには、生徒により深く文章を読ませ、文章に興味・関心を抱かせ、生徒の知的好奇心を刺激することが必要ではないだろうか。しかし、生徒が一方的な説明だけを求める姿勢である限り、主体的に読みを深めようという意欲を持つことは困難であり、読書へ向かうとすることも考えにくい。授業の中に、生徒が主体的に文章を読み深め、生徒の知的好奇心を刺激する仕掛けを用意しなければならぬ。そこで、現代文Bにおいて、生徒が文章を主体的に読み深める授業の手法を考察することにした。

## 二 研究仮説

### (一) アンケート調査

研究を始めるに当たって、国語の授業と生徒の読書の関係についてアンケート調査を行った。

【資料1】アンケートの内容と結果

対象 第三学年（百七十八名）

実施時期 平成二十六年十一月

質問1 授業後、授業に関連する他の文章や資料等（同じ作者、同じ分野、関連する内容等）を読みたいと思いませんか。

① よく思う 9名 ② ときどき思う 94名  
③ あまり思わない 53名 ④ まったく思わない 22名

### 質問2

(1) 質問1で①又は②を選んだ人は、実際に読んだことがありますか。

① よくある 3名 ② ときどきある 54名  
③ あまりない 28名 ④ まったくない 18名

(2) ③又は④を選んだ人は、その理由を教えてください。（自由記述）

・自力で読むと難しい。  
・気になるけど、探してまで読むとは思わないから。

・授業でそのような機会があれば読みたいと思うが、家で読みたいとまでは思わない。

・その時は読みたいと思うが時間もなく、忘れていることがある。覚えていても何を読めばいいかわからない。

### 質問3

(1) 授業以外で、自ら読書をすることがありますか。

- ① よくある 34名 ② ときどきある 58名  
③ あまりない 39名 ④ まったくない 47名

(2) どのような本を読みますか。(自由記述)

- ・ライトノベル。ミステリー、ファンタジー、ホラー、恋愛などの小説。
- ・ファンタジー系の厚い本などを図書館で読む。「はてしない物語」を最近読んでいる。

・前はよく読んでいたが、最近なかなか読めなくなってしまった。読みたいという気持ちはある。

### (二) 分析

アンケートの結果【資料1】から次のことが明らかになった。

質問1では、授業で取り上げた文章に関係する文章や資料等を読みたいと回答した生徒は全体の五十八%である。生徒の半数以上が、授業内容や授業で取り上げた文章に興味を持っていることが分かる。

質問2では、実際に授業で取り上げた文章に関わるものを読んだことがある生徒が、アンケート調査対象者全体の三十二%と、一定数いることが明らかになった。しかし、授業で興味を持って、その後進んで読書をするにつながらない生徒もいる。授業で取り上げた文章に興味を持ってない生徒も含めると、多くの生徒が授業で取り上げられた文章について、他の文章等を通して考えを広げたり深めたりしていないことが分かる。

質問3では、生徒の五十二%は自ら読書をしているが、読んでいる本はライトノベル等が多く、娯楽として楽しめる小説を好んで読んでいることが分かる。「あまりない」「まったくくない」と答えた生徒の中には、読書をする意欲はあるが、それぞれの事情で読書に至らないという回答もあった。生徒の読書に対する意識は、予想以上に高かった。

このアンケート結果から、生徒の約半数が授業で取り上げた文章に興味を持ち、関連する他の文章や資料等を読みたいと肯定的に感じていることが分かる。また、実際にその五十五%、全体では三十二%の生徒が、授業

で取り上げた文章に関連した文章や資料等を読んでおり、読書に結びついている現状も明らかになった。また、生徒の半数以上が読書意欲を持っており、文章を読むことに抵抗のない生徒が多いと言える。

### (三) 仮説

生徒の実態を踏まえると、本校生徒は授業での学習内容に興味・関心を持つ生徒が多く、読むことにも抵抗があまりない。そこで、生徒が主体的に文章を読み深め、生徒の知的好奇心を刺激する仕掛けとして、授業で取り上げた文章に関連する他の文章や資料等を授業で活用することが有効ではないかと考え、次の仮説を立てた。なお本論では便宜上、授業で取り上げた教科書の文章を「教材」、関連する他の文章や資料等を「補助教材」と呼ぶ。

文章(教材)とその文章に関連する他の文章や資料等(補助教材)を読んで考えさせることで、文章(教材)を読み深めることができるのではないか。

### 三 研究方法

教材として取り上げた文章に関連する他の文章や資料等を用いる授業の有効性を研究するために、次のとおり検証する。

- ① 補助教材を用いることが生徒にどのように受け入れられるかを検証する。
- ② 評論文を教材として取り上げ、教材と同じ書き手、同じ内容の文章を補助教材として用いることで、読みが深まるのかを検証する。
- ③ 小説を教材として取り上げ、教材と関係の深い文章を補助教材として用いることで、読みが深まるのかを検証する。
- ④ 複数の異なる補助教材を用いることで、読みが深まるのかを検証する。

四 授業実施計画

(一) 平成二十六年 三年生「現代文B」三単位 及び「国語研究」(学校設定科目) 三単位

実施時期	単元	学習目標	学習活動	評価方法
平成二十六年 六月	予備実践(国語研究) 「評論文を的確に読み取る」 教材『貨幣』の本質、『愛』の本質	・評論文の内容を的確に読み取る。	・評論文に引用された昔話「瓶の妖鬼」と貨幣論の関係を読み取りながら、書き手の主張をまとめる。 ・引用された昔話を読み、評論文を読み深め感想を書く。	・行動の観察 ・記述の分析
平成二十六年 九月	授業実践Ⅰ(現代文B) 「文章を読み比べて考えを深めよう」 教材「ミスは避けられない」	・文章を読んで自分の考えを深める。 (内容(1)ウ)	・「ミスは避けられない」という表題を参考に、書き手の主張をまとめる。 ・同じ書き手の他の文章を読み、「ミス」について、自分と書き手の考えを比較して感想を書く。	・行動の観察 ・記述の分析
平成二十六年 十月	授業実践Ⅱ(国語研究) 「書き手の考え方を理解しよう」 教材「読者の誕生と作者の死」	・評論文の内容を的確に読み取り、書き手の考えを理解する。	・「作者の死」と「読者の誕生」を文章に即して読み取り、書き手の主張をまとめる。 ・同じ書き手の他の文章を読み、近代的概念としての「作者の死」を理解する。	・行動の観察 ・記述の分析

(二) 平成二十七年 二年生「現代文B」三単位

実施時期	単元	学習目標	学習活動	評価方法
平成二十七年 六月	授業実践Ⅲ(現代文B) 「小説を読み深めよう」 教材「山月記」	・文章を読んで書き手の意図を捉え、表現を味わう。 (内容(1)イ)	・「山月記」を読み、登場人物の心情や情景を読み取る。 ・「人虎伝」を読み、「山月記」との違いから書き手の意図を理解する。	・行動の観察 ・記述の分析
平成二十七年 九月	授業実践Ⅳ(現代文B) 「評論文を読んで考えを深めよう」 教材『ブーボー』と『マンマ』の記号論	・文章を読んで自分の考えを深める。 (内容(1)ウ)	・「記号論」について文章に即して読み取り、書き手の主張をまとめる。 ・関連する他の文章を読み、「記号論」の具体例を知り、感想を書く。	・行動の観察 ・記述の分析

## 五 授業実践

### (一) 予備実践

- 〈実施時期・対象〉平成二十六年六月・三年生  
〈単元〉国語研究 評論文を的確に読み取るう  
〈教材〉『貨幣』の本質、『愛』の本質（岩井克人）  
〈補助教材〉「瓶の妖鬼」

### ア ねらい

評論文に引用されている文章を読ませることで、評論文の内容を理解させる。

### イ 授業展開と指導上の留意点

- (ア) 教材の文章に引用された昔話と貨幣論の関係を踏まえながら、論理の展開に沿って書き手の主張を読み取らせる。  
昔話「瓶の妖鬼」と貨幣論との関係に着目するよう指示する。  
(イ) 「瓶の妖鬼」（補助教材）を抜粋してまとめたものを読ませ、教材の感想を書かせる。  
書き手の主張を踏まえた上で、教材の文章に引用されている昔話を読むよう促す。

\* 補助教材を選んだ理由は、教材の文章に引用されている文章であり、教材の文章の内容を的確に理解させることに有効であると判断したため。

【資料2】生徒の記述抜粋

- ① 私は評論文はあまり得意ではないのですが、この話は物語があつて分かりやすかったです。
- ② 授業で「瓶の妖鬼」を少しだけ読んだが、まったく時代も関係ないのに内容があつていて不思議に思った。
- ③ 「瓶の妖鬼」をぜひ読んでみたいと思いました。

### ウ 考察と反省

本校生徒は、評論文に対して苦手意識を持っている。そこで、評論文を取り上げる場合は、なるべく苦手意識を持たせず、興味・関心を喚起させることが重要であると考えている。

本実践で取り上げた教材は昔話が引用され、読み手が内容を理解しやすいように工夫されている。授業において、引用されている昔話「瓶の妖鬼」の一部を抜粋し、生徒に読ませた。すると生徒は興味深く「瓶の妖鬼」を読み、読み終わってからは、生徒は「不思議な話だ」「確かに貨幣論と似ているところがある」「昔話なのにすごい」といった感想を述べた。

生徒にとって苦手な評論文であるにもかかわらず、多くの生徒がこの教材に関心を持ち、内容も理解することができた。引用されている文章を補助教材として読ませることで、評論文への興味・関心を喚起させるとともに、引用部分の内容をよりよく把握することができ、評論文の内容を理解することにつながった。

予備実践は、生徒に教材の文章の内容を理解させることをねらった授業であるが、生徒にとって読みやすい文章を補助教材として取り上げることが、教材の文章を読み取らせる上で有効であることが分かった。単元に合わせて有効な補助教材を適切に活用することで、主体的に文章を読み深めることが期待できる。

この後の授業実践では、補助教材を活用して教材を読み深める授業を検証し、読みを深めることで、生徒が主体的・発展的に考えを深めたり広げたりすることができるようになるのかを明らかにする。

### (二) 授業実践 1

- 〈実施時期・対象〉平成二十六年九月・三年生 二クラス  
〈単元〉現代文B 文章を読み比べて考えを深めよう  
〈教材〉「ミスは避けられない」（羽生善治）  
〈補助教材〉「大局観—自分と戦って負けない心」（羽生善治）

### ア ねらい

文章を読み比べさせることで、文章の読みを深化させ、考えを深めさせる。

## イ 授業展開と指導上の留意点

(ア) 教材として取り上げた評論文を読ませ、書き手の主張を捉えてまとめさせる。

書き手について授業者が説明する。「ミスは避けられない」という表題を参考にして主張を考えるよう指示する。

(イ) 書き手の主張を踏まえて「ミスは避けられないのか」という題で自分の考えを書かせる。

(ウ) その文章を四名の班で回覧しそれぞれの考えについて話し合わせる。(エ) 『大局観―自分と戦って負けない心』(羽生善治、角川書店、平成二十三年二月)より「ミスについて」(抜粋)を読ませ、改めて「ミス

は避けられないのか」という題で、書き手と自分のミスの捉え方の違いを明確にしながら作文を書かせる。

\* 補助教材を選んだ理由は、同じ書き手が、同一の内容を具体的に記した文章であり、評論文を深く読み取らせることに有効であると判断したため。

【資料3】一回目の作文

① やっぱミスは避けられないと思います。例えばどのようなスポーツであっても、常に冷静でいることは難しいからです。

② ミスをする时必须後悔する。でもミスから学び、人は成長するのだと思う。

【資料4】二回目の作文

① 羽生さんはあきらめるとか忘れる、気持ちをリセットするという難しいことを平気

② 僕は羽生さんのように「悔れぬ」のではなく、そのミスについては考えない、しかし心のどこかにこらめておくのと同じだと思います。

## ウ 考察と反省

導入では、「ミスは避けられないのか」ということについて生徒に意見を出させた。この場面では、ほとんどの生徒が「人間だからミスをする」「ミスがあるから成長できる」という意見を持っていた。文章を読ませる前に、プロ棋士としての羽生善治について説明をし、書き手の立場を踏まえて書き手の考え方を読み取るよう指示した。

生徒に教材の文章の内容を把握させた後、「ミスは避けられないのか」という題で作文を書かせた。生徒は、将棋という限定された場で、勝敗が明確に決まる特殊な場面におけるプロ棋士にとつてのミスに対する考え方が文章に書かれていることを、踏まえることができなかった。作文の内容は、生徒自身のこれまでの失敗談など、高校生としての視点を抜け出せないものであった【資料3】。

そこで、生徒に書かせた作文を生徒間で回覧させ、生徒の書いたミスと評論文に書かれているミスの違いを確認させてから、補助教材を読ませた。その後「ミスをしたらどうするのか」という点に着目させ、自分と書き手のミスに対する考えの違いが明確になるように、作文を書き直させた。すると、書き手の、ミスをしたらすぐに忘れるという精神力の強さと、その場の勝負を諦めない姿勢を読み取ることができた。補助教材には、将棋における具体的な事例と、書き手のミスに対する考え方や対策が明確に書かれており、生徒は、その記述に気付く、主体的に教材の文章を読み直していた。

二回目の作文には、書き手のプロ棋士としての強さを踏まえながら、自分の弱さや成長を望む気持ちなどが書かれていた。二回目の作文から、文章の読み取りがよりの確になり、文章を踏まえた上で自分の考えを深めることができたことが確認できる【資料4】。生徒は、補助教材を読むことよって、教材の文章に深い内容が含まれていることに気付く、文章の内容を的確に読み取ったのである。教材に取り上げた文章の読みが深まったと評価できるだろう。

しかし、教材の文章に書かれていた、経験を積み重ねること、実戦の中でいろいろな局面にぶつかること、恐れずに挑戦することに言及した生徒はわずかであった。生徒が補助教材の内容にとらわれてしまったこ

とが原因だと考えられる。補助教材の内容次第で生徒の視点を制限してしまうことが分かった。

### (三) 授業実践Ⅱ

- 〈実施時期・対象〉平成二十六年十月・三年生
- 〈単元〉国語研究 書き手の考え方を理解しよう
- 〈教材〉「読者の誕生と作者の死」(内田樹)
- 〈補助教材〉「寝ながら学べる構造主義」(内田樹)

#### ア ねらい

文章を読み比べさせることで、読みを深化させ、文章を的確に理解させる。

#### イ 授業展開と指導上の留意点

- (ア) 論理の展開に沿って書き手の主張を読み取らせる。書き手について授業者が説明する。一つ一つの語句の概念を丁寧に理解するよう促す。

- (イ) 『寝ながら学べる構造主義』(内田樹、文藝春秋、平成十四年六月)より教科書掲載箇所の前後を抜粋したものを読ませ、文章で用いられる「作者」「読者」「テキスト」という概念を理解させる。必要に応じて補助教材の内容について説明する。

- (ウ) 内容の理解を深めるために、①「読者と作者の関係」②「コピーライトの問題点」のどちらかについて考えたことを書かせる。

①は抽象的な概念、②は現代社会の具体的な問題であることを示し、興味のある方を書くように伝える。

- (エ) 他者の作文を読ませ、気付いたことや考えたことを書かせる。生徒の作文の中から、分かりやすくまとめているものや鋭い指摘をしているものを選び、印刷して生徒に配付する。

\* 補助教材を選んだ理由は、教材の文章の前後の文章であるので、教材の文章を理解させる上で有効であると判断したため。

【資料5】最初の作文

- ① 伝わらないから伝えようと思っていないことが伝わって、批評家たちの考えが広がり、読み手にとっても、多くの読みができ、それがその作品に味や深みを出すのではないか。読む人によってとらえ方がまったく違う方が、感想を言い合う上でおもしろく、また新たな扉を開ききっかけになるだろう。
- ② 例えば、動画サイトに投稿された動画。インターネットを見てみると、動画によって削除されている場合がある。また、ツイッターでは本人が描いたイラストが、他者によって無断転載されていることが増えている。

【資料6】生徒作品を読んだ後のまとめ(資料5)とは別の生徒)

- ① 作者が自分の伝えたいことを理解してなくて、それを読者がいろいろな解釈をして、そこからまた作者もいろいろなることを学びそれをまた書いたら、読者と作者に循環がでる。文学とはとても興味深いものだと思った。
- ② 私はこの「読者の誕生と作者の死」という題名を見て、どういことなのかよく分からなかった。でもネットの例のところを読んでよく理解できた。

#### ウ 考察と反省

導入として教材の表題「読者の誕生と作者の死」について考えさせた。「読者の誕生」については何となく想像できる生徒もいたが、「作者の死」については見当もつかないといった様子であった。教材は、文体は平易だが、内容は生徒にとって非常に難解であったため、補助教材については教材の内容の理解につながるための資料として扱った。解説も加えながら授業を展開したため、補助教材を読んだ後の方が、よりの確に内容が理解できた。補助教材には「テキスト」の詳細な説明や具体例などがあり、その結果「作者の死」の概念を多くの生徒が理解できた。【資料5】は、補助教材を読み取った結果、文章の内容をより深く理解できていた例である。補助教材活用の効果が確認できる。

しかし、文章に書かれた概念について理解ができず、生活の中での具体的な事柄を想像することができなかった生徒もいた。他の生徒の作文を読ませたところ、具体的に分かりやすい、なるほどと思ったなど、理解を示した【資料6】。授業実践Ⅰでは作文の題を限定して書かせた

め、生徒の視点を制限してしまつたが、授業実践Ⅱでは作文の題を生徒に選ばせることで、読みの深まりや広がりも生まれた。補助教材を活用することで読みが深まったと評価できる。また、読みの深まりが見られた生徒の作品を、生徒同士で読ませることで、学習集団全体としての読みの広がりもあつた。

(四) 授業実践目

- 〈実施時期・対象〉 平成二十七年六月・二年生
- 〈単元〉 現代文B 小説を読み深めよう
- 〈教材〉 「山月記」(中島敦)
- 〈補助教材〉 「人虎伝」

ア ねらい

文章を読み比べさせることで、読みを深化させ、書き手の意図を捉えさせる。

イ 授業展開と指導上の留意点

- (ア) 登場人物の心情や場面の展開に注意しながら文章を通読させ、感想を書かせる。
  - (イ) 「人虎伝」の現代語訳と「山月記」を班に分かれて読み比べさせる。それぞれの相違点を見付けるよう指示する。
  - (ウ) 班ごとに読み比べて相違点と考えたことを「読み比べワークシート」【資料7】にまとめ、発表する。
- 読み深めるのは「山月記」であることを確認する。各班を巡回しながら適宜助言する。
- (エ) 読み比べた感想を書かせる。

\* 補助教材を選んだ理由は、「山月記」(教材)が「人虎伝」(補助教材)をもとに書かれた小説なので、「山月記」(教材)の書き手の意図を捉えさせる上で有効であると判断したため。

【資料7】読み比べワークシート

「山月記」と「人虎伝」の読み比べ

【目標】二つの文章を読み比べて、両者の違いから「山月記」の主題を考えよう。

自分の分担に○を付ける (李徴・孫徳・プロット話の順序)

	山月記	人虎伝
両者の違い、変化していることなど	<p>最も親しい友 しりぞける(温和な性格) 超自然の怪果 詩において何か欠けるところがある 去るところまで書きのめる</p> <p>縁が非常に深い 怒り、こ言う どうして人間言葉を使えるのか? 感動すること再三 去る、後の修の丹格まで書きのめる</p>	<p>山月記では哀傷が温和な性格で消極的なためオチ徴をひきたとる。 と対して人虎伝は会話文が多く哀傷の人物がよみとりや</p>
読み比べて分かったことや、考えたことなど	<p>班の考え (変化強調→主題) プロット話の順序 オチ徴は悪い 山月記は主眼に</p>	<p>自分の分担 と対して人虎伝は会話文が多く哀傷の人物がよみとりや</p>

余白(メモ・他の班の意見など)  
犯罪はしらない  
たじ傲慢なだけ  
心なる猛獣  
詩人としてのこだわり自己主張が芸術家として表す関係性  
温和な感じ ↓ 派  
自分の中の人虎 ↑ 行動そのもの  
心情悟性

【資料8】班学習の様子



【資料9】発表の様子



【資料10】生徒の記述抜粋

- ① 班で人虎伝を読んで、李徴と袁倬の関係が微妙に違っていて、二人の様子がわかるようになった。
- ② 最後に読み比べをしたとき、山月記の方が詳しく書かれてて、李徴の心情がどうなっているのか分かりました。
- ③ 人虎伝と読み比べて、さらにキャラクターの特徴や話の流れ方についてわかって深く知ることができたのは良かった。今どういう状況なのか、雰囲気も浮かぶようになったと思う。
- ④ 最初、山月記を読んだ時、難しい漢字ばかりだし物語は長いし、正直つまらないと思ってたけど、内容を理解していくうちに、山月記の不思議な内容をすごくおもしろいなと思うようになった。人虎伝と読み比べた時はおもしろさが二倍になった気がしてすごく楽しかった！
- ⑤ 一番最後の「人虎伝」と「山月記」の違いをまとめて発表し合った授業で班のそれぞれの色が出た意見を聞いて、また理解が深まった感じがしました。

## ウ 考察と反省

導入では、通読してから感想を書かせた。感想には、「①おもしろい（好きな）話か、おもしろくない（好きではない）話か」「②疑問に思ったこと」について書かせた。①は、ほぼ半々に別れた。②は、なぜ虎になったのかという疑問が多かった。授業は、生徒の疑問や考えに沿う形で展開し、生徒が関心をもつて授業に取り組めるように心掛けた。特に「山月記」は、生徒にとって難解な語句が多く用いられているため、導入段階では学習意欲の喚起に力を入れた。なお①については、多くの生徒から授業を通して面白くなったという感想を聞くことができた。

授業では、時代背景、人間関係、登場人物の心情、情景描写の意味等を確認しながら文章を読み取らせた。生徒は物語の流れは理解できていたが、李徴の長い独白や、袁倬の態度などに疑問を感じていた。

「人虎伝」をもとにして「山月記」が書かれたことを説明し、班を作らせて「山月記」と「人虎伝」を読み比べさせた。特に留意したのは、「山月記」の読みを深めることが学習の目的であるということである。「人虎伝」を読み取ることに集中してしまうと、学習の意味が曖昧になってしまう。そこでワークシートでは読み比べの視点を三つに分けた。①李徴、②袁倬、③プロット（話の順序）である【資料7】。班の中で役割を分担し、それぞれの視点に立って読み比べさせた【資料8】。「山月記」と「人虎伝」の違いから、「山月記」の特徴や書き手の意図を話し合いながら考えさせ、班で意見をまとめた後に、クラスで発表をさせた【資料9】。

成果としては、「山月記」をより理解できた、読みが深まったという意見が多く見られた。基本的な人物関係が理解できるようになったというものから、李徴が詩や自意識に過剰に執着する様子を読み取れたもの、さらには情景描写やプロットの違いから李徴の心情描写を重視する書き手の意図に気付いたものもあった。また、発表を通して他者の考えを聞くことで読みが一層深まったという生徒もいた。ほとんどの生徒が補助教材を通して教材として取り上げた文章の読みを深めることができた【資料10】。



#### 4. 『ブーボー』と『マンマ』の記号論を讀んだ感想や考えたこと

最初讀んだ時は、何をどう違ふのか、何と何と比べているのか、すぐに読  
み取る事が出来ず、授業を聞いていくうちに理解が出来たが今回の各  
班で読み取りをやる事で、すんなりと内容が頭に入ってきた。さらに納  
得した上で取り組む事が出来た。自分の班が取り組んだのは違ふ  
「擬声語と擬態語」についてはとても共感が出来た。自分の同りでは  
起っている事や、頭がカチンくるほどの事は、カチンが、何を表し  
ているのか、わからないのに、皆には頭が痛いって事が伝わったりあるの  
も今考えると普通では無いと思つた。よく、擬声語や擬態  
語はよく使うので親しみが出来た。先生の説明を聞いて、確  
かに「グスグスうるは」とは、グスグスはなっている音  
が、目にも見えはしないのにそれだけで伝わって、こ  
うということ。あづくわかりやすく、さらに納得する  
ことが出来た。自分が評論文を書く苦手だったのに  
自ら文を讀んで解決して、友達と相談して発表  
を聞いて、短時間でものあづく成長した様子は  
がします。苦手を取らえろに讀んでいきたい。

#### ウ 考察と反省

授業実践には、評論文を教材とし、これまでの実践のまとめとして行  
った。「同一の書き手の文章を扱うこと」「別々の書き手が同じ内容につ  
いて書いた文章を扱うこと」「班学習を取り入れ、生徒同士で交流する  
こと」の三点を踏まえての授業である。

『ブーボー』と『マンマ』の記号論は難解であるという意識を持  
つ生徒が散見された。まずは内容に興味を持つように、様々な具体例を  
示しながら説明し、記号論が生活の中で感じられる事柄を生徒に考えさ  
せながら、丁寧に通読させた。

記号論の抽象的な内容が、実際にどのようなことを示しているのかを  
知ることが、内容を深く理解し、考えを深めることになることと、関係  
する複数の文章を読ませた。生徒に複数の異なる補助教材を読ませるこ  
とで、様々な考えを持たせたかったので、班ごとに異なる補助教材を配  
付し、読み取った内容を各班に発表させた。発表の際には、他の班が知  
らない内容を説明することになるので、確実に伝わるよう、班の中で係  
分担当を決めさせた。係は、まとめ役の班長、発表係、板書係、発表原稿  
作成係である。係をあらかじめ決めることで班学習が円滑に進められた。

班活動は、配付された補助教材を読み取ることから始まる。班によつ  
ては読み取ることが難しい文章もあったので、適宜助言した。生徒は、  
補助教材の内容に興味を示していた。例えば、文化によって太陽の捉え  
方が異なり、それが商売にも影響するという内容や、日本語の兄弟と英  
語のブラザーでは世界の見方が違うのだという内容、英語のオレンジで  
は日本語では茶色のようなものも指しているという内容についてであ  
る。生徒は意欲的に発表の内容を「発表ワークシート」にまとめていた

#### 【資料11】

発表の際には、班ごとに内容が異なるので、生徒は興味深く発表を聞  
いていた。熱心にメモを取る生徒も多くいた。発表後に自分の考えをま  
とめた文章を書かせたが、難解な記号論について、生徒が主体的に具体  
例を考え、記号論が人間の生活やものの考え方に密接に関連しているの  
だと、理解することができていた。文章の読みが深まり、発展的な学習  
ができたと言える。

抽象的な内容が書かれている文章を教材として取り上げたため、生徒が読み取るとは難しいのではないかと思われた。しかし、複数の補助教材を用いて班学習による生徒同士の読みの交流を行ったことで、興味を持って学習に取り組んでいた。また、【資料12】の生徒の感想には「評論文（が）すごく苦手だったのに自ら文（章）を読んで解決して、友達と相談して発表を聞いて、短時間でものすごく成長した様な気がします」とある。生徒自身が、学習の達成感や読む力の向上を実感できていると言える。

## 六 まとめ

### (一) アンケート調査

【資料13】アンケート内容と結果

対象 第二学年（百十九名）  
実施時期 平成二十七年十月

質問1 補助教材を用いることで、教材の文章の理解や考えが深まりましたか。

- ① とても深まった 26名
- ② 深まった 63名
- ③ あまり深まらなかった 27名
- ④ まったく深まらなかった 3名

質問2 授業の後、自分でも授業に関連したものを読みたいと思いますか。

- ① とても思う 3名
  - ② 思う 35名
  - ③ あまり思わない 62名
  - ④ まったく思わない 19名
- 質問3 授業を通して、以前より読む力が向上したと思いますか。
- ① とても向上した 10名
  - ② 向上した 72名
  - ③ あまり向上しなかった 35名
  - ④ まったく向上しなかった 2名

【資料14】自由記述一例

- ① 「フーボーとマンマの記号論」をやった時は理解できていない所が少しあったけど、その後様々な文章を読んで理解できた部分があったのでとても良かった。
- ② 教科書の内容だけでなく自分には難しく、もやっとしてたけど、補助教材があることでよりわかりやすくなって、内容を理解できた。あと、ふつうに人虎伝がおもしろくて新しいジャンルにも興味があった。
- ③ 「山月記」の授業で、最初は話の内容がまったく読めなかったけど、授業をしていくうちに面白い話だと思ったし、「人虎伝」を読んで、もっと深まり、理解が深まりました。
- ④ 理解したうえで、比べることにより、その作者の考えや、思いがより強く感じた。いろいろな考えを思いつけるようになったし、とても理解が深まりました。
- ⑤ 自分で納得することが増えた。
- ⑥ 楽しい授業でないと、理解や考えを深めようと思わないので、ここまで深く考えられたことは自分の中で進歩だと思う。補助教材の前のふつうの授業が面白いからこそ学力が向上した。
- ⑦ 班で話し合ったりして、内容を深めていけて楽しかった。
- ⑧ 班ごとに違う文章を読み、発表するのは楽しかった。
- ⑨

### (二) 仮説の検証

生徒が現代文を読み深める授業として、補助教材の活用が有効であったかどうか、仮説を検証する。

文章（教材）とその文章に関連する他の文章や資料等（補助教材）を読んで考えさせることで、文章（教材）を読み深めることができるのではないか。

授業実践後に、アンケート調査【資料13】を行った。このアンケートは【資料1】のアンケートとは調査対象者が異なるが、授業の効果が生徒の意識の変容として表れているかを明らかにするために行った調査であ

る。

質問1では、肯定的な回答が七十五%であった。授業を経て、教材の文章の読みが深まったと多くの生徒が実感している。

質問3では、肯定的な回答が六十九%であった。多くの生徒が、授業後に読む力が向上したと感じている。

次に、自由記述【資料14】から考察をする。『ブーボー』と『マンマ』の記号論』について、「その後に様々な文章を読んで理解できた部分があった」(①)とあり、補助教材を用いて読み取ったことが教材の理解につながっていることが分かる。②は「山月記」に関する感想であるが、小説を教材とした場合でも、ほぼ同様の効果を得られた。また、「新しいジャンルにも興味がわいた」とあるように、生徒の興味・関心を喚起することもできた。

③④の感想は、本研究のねらいを達成したものといえる。補助教材の活用によって「もっと深まり、理解ができました」とあるように文章の読みが補助教材によって一層深まった生徒や、「作者の考えや、思いがより強く感じた」とあるように、書き手の創作意図まで考えることができた生徒がいるということである。つまり、感想①②③④から、本研究の授業実践を通して、補助教材を活用することで、文章についての理解や考えを深めることが可能であることが明らかになった。

⑤では「いろいろな考えを思いつけるようになった」とあり、⑥では「自分で納得すること」ができるようになったとある。ここから、生徒の受動的な授業態度の改善が見てとれる。補助教材を用いて主体的に読む活動が自ら学ぶ姿勢につながったのである。

⑦では「ここまで深く考えられたことは自分の中で進歩だと思う」とあり、生徒が自分自身の確かな成長を実感している。この授業が達成感や成功体験として生徒に残っており、今後の学習の取組にも期待が持てる。また、「補助教材の前のふつうの授業が面白いからこそ学力が向上した」とある。補助教材を活用する授業においては、基本的な読み取りや理解が基盤となっていることも同時に分かった。ただ補助教材を使えばそれで良いのではなく、基礎・基本の徹底と、毎時の授業の更なる向上、工夫、改善が求められている。

⑧⑨は、班に分かれての学習活動が楽しいという意見である。生徒同士での様々な意見交換や学び合いが、学習の動機付けになっている。学習目標に対し、必要に応じて柔軟に班学習を取り入れていくことで、更に効果的な授業の工夫ができると考えられる。

以上のことから、生徒は補助教材を読んだことが主体的に文章を読み深めることにつながったと感じていることが分かり、各実践では生徒の読みの深まりを確認できたことから、本研究の仮説は有効であると判断する。ところで、アンケートの質問2【資料13】では、否定的な回答が六十八%であった。これは、研究当初に行ったアンケート結果よりも否定的回答の割合が増加している。調査対象は異なるが、読書意欲を喚起するという点においては改善ができなかった。本授業実践では、授業での学習を中心に研究し、読む力や学習意欲の向上に資することを検証したが、生徒の読書意欲を喚起することについては、授業実践の継続や別の指導の在り方が模索される必要があるだろう。それでも、一定数の生徒に読むことに対する意識の向上が見られ、また「新しいジャンルにも興味がわいた」(資料14)②とあるように、読書につながるような興味を抱く生徒がいることは、この授業実践の可能性を示唆するものと言える。本研究で得た授業実践の課題とともに、今後の研究課題としていきたい。

## 七 おわりに

生徒に自ら読みを深めさせ、発展的な学びをさせたいという思いが、本研究の出発点である。実践当初は補助教材を配ると、生徒はこれ以上勉強したくないという様子を見せていたが、根気強く、そして学習目標を丁寧に説明しながら授業を繰り返すことで、徐々に生徒も積極的に授業に取り組むようになっていった。補助教材を配付すると食いつくように読み始める姿や、深く学べたという生徒の感想が何よりの励みであった。授業者の働きかけで生徒が伸びていくことを改めて実感することができた。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださり、御指導と御助言を賜りました指導主事、教科指導員の先生方、そして勤務校の先生方と生徒の皆さんに厚く御礼申し上げます。結びとさせていただきます。